

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-80	高等学校	公民	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	倫理 104-901	改訂版 倫理		

1. 編修の基本方針

- (1) 教育基本法や学習指導要領における目標が達成されるよう、学習指導要領の内容や、その取扱いに示された事項に準じて編修した。
- (2) 自己や他者の心のあり方への関心から学習意欲を高め、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、現代の倫理的課題に取り組めるようになることに留意して編修した。
- (3) 現代に生きる自己と現代の倫理的諸課題、さらに先哲の考え方に関する基本的な学習を通して、人間としてのあり方生き方や国際社会に生きる日本人としての自覚についてみずから考える力を養えるよう、また社会に対して主体的に寄与しようとする態度を育成できるように配慮した。
- (4) 本文の記述にあたっては、学習内容を正確に理解できるよう、できるかぎり平易に、かつ簡潔になるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方		
第1章 さまざまな人間の心のあり方	心理学に関する基本的な知見を紹介し、実験・観察など科学的な方法の重要性を理解させ、また、豊かな自己形成に向け他者と共によりよく生きる自己の生き方について思索を深められるよう配慮した(第1号)。	6~23 ページ
第2章 さまざまな人生観	世界宗教を含む西洋と東洋の源流思想を紹介し、そこでの思索が現代の知識・教養や真理を求める態度にもつながっていることを気付かせるよう配慮した(第1号)。	24~77 ページ
第3章 さまざまな倫理観・世界観	人間・理性・自然・科学・個人・民主社会・公共・正義などにかかわる西洋近現代思想を中心に紹介し、倫理的な見方や考え方を身につけることができるよう配慮した(第2号・第3号)。	78~147 ページ
第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚	日本の風土や伝統思想、さらには先人の思索を紹介し、生徒自身の価値観や生き方に与えている影響について理解できるよう配慮した。(第5号)。	148~ 204 ページ
第2編 現代の諸課題と倫理	【第1・3節】生命科学などの科学技術の発展にともない提起されてきたさまざまな問題について、多様な角度から考察できるような構成にした(第4号)。	206~ 252 ページ

	<p>【第 2・3 節】自然の生態系が持つ特徴や人類の活動が自然に与える影響を知り、地球規模で環境保全に取り組んでいかなければならないことを気付かせるような構成にした（第 4 号）。</p> <p>【第 4～6 節】自国の伝統・文化を尊重することが、自民族中心主義に陥ることのないように注意を喚起し、他国や異文化の尊重を国際平和へと結びつけられるように配慮した（第 5 号）。</p>	
--	--	--

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 全体として、次のことに配慮した。

- ・ カラーユニバーサルデザインに配慮し、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォント（UD フォント）を使用した。
- ・ p.4 のもくじページや 2 か所の編とびらに「二次元コード」を設け、関連するサイトや動画へのリンク、学習理解度を確認する「確認テスト」、課題探究活動などに役立つ統計資料や法令検索のページにアクセスできるようにした。
- ・ 学校教育法第 51 条「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い」の規定を踏まえ、第 1 編に「Thinking Time」のページ、第 2 編の各節末に「考えてみよう」のコーナー、ならびに各節のあとに現代の倫理的諸課題を身近な話題から具体的に考察する「現代から考える倫理」のページを配置し、思考力・表現力を養う機会を設けた。
- ・ 巻末に「対話・議論の技能」のページを設け、課題探究活動を行いやすくするための配慮をした。

(2) 第 1 編・第 1 章

発達、個性（人格）、感情、認知に着目して、人間の心のしくみと成り立ちを紹介した。AI などの科学技術が著しく発達する現代において、人間とは何かを改めて考え、人間はどのように生き豊かな自己を形成していくべきなのかという問題提起をしながら、先哲の基本的な考え方を紹介する第 2 章～第 4 章、さらには、現代の倫理的諸課題を考察する第 2 編へとつながりをもたせる記述を心掛けた。

1 発達心理学

発達段階

心はどのように発達するのか。

生まれたばかりの赤ちゃんはことを覚えていないが、しだいに覚えるようになり、やがてさまざまな知識を獲得していく。このように、人間は発達していくものであるが、では、生涯を通じてどのように変化するのであろう。

人間の発達を、ある時期に特有な特徴や機能に着目すると、いくつかの発達段階に分けることができる。ピアジェは認知の発達に注目し、四つの発達段階にまとめた。

<p>遠慮的時期 (0～2歳ごろ)</p>	<p>「見る」「聞く」といった感覚と手足を使った運動動作によって、外界を認識していく時期。</p>
<p>前操作期 (2～7歳ごろ)</p>	<p>自己中心性が見られ、物事の視点に立ちにくかったり、対立行動に惹かれ、誤理解が生まれやすくなる時期。</p>
<p>具体的操作期 (7～11歳ごろ)</p>	<p>数中心化(自己中心性からの脱却)することで、具体的な物事について論理的思考が発達し、奇抜性が生まれる時期。</p>
<p>形式的操作期 (11～15歳ごろ)</p>	<p>論理的な場面でも論理性が押し、抽象的に考えられるようになる時期。</p>

▲ピアジェの発達段階

ピアジェが15歳ごろに大人の思考に到達すると考えたのに対して、人間は誕生から死までの生涯にわたって発達するという生涯発達の視点から、ライフサイクルにおける発達段階を八つにまとめたのがエリクソンである。私たちは、人生のさまざまな時期に、自身の内的要求と社会からの外的要求によって生じる葛藤を繰り返し経験する。エリクソンは、このような葛藤を心理社会的危機とよんだ。発達を方向づける心理社会的危機が否応なく想定され、これを乗り越えることで次の発達段階に進むのである。

乳幼児期の発達


乳幼児の心の発達には何が重要か。

赤ちゃんはこの世界をどう見ているのだろうか。五感(視覚・聴覚・触覚)


●ライフサイクル 牛乳が育ち、成長し、老いて死ぬという一連の役割を導く変化は、その側面のこと。

心理学実験 心の理論の発達


次の説明を自分から順番に読み進めて、空の欄に答えよう。



①男の子がAのおもちゃの箱に入れて扉を開けると、Aの箱におもちゃが入っていて扉から出る。



②男の子がAのおもちゃの箱に入れて扉を開けると、Aの箱におもちゃが入っていて扉から出る。



③男の子がAのおもちゃの箱に入れて扉を開けると、Aの箱におもちゃが入っていて扉から出る。

このA、Bの箱の中を覗き込んで、Aの箱にはチョコレートが入っているか、Bの箱にはチョコレートが入っているか、を判断する実験である。男の子はAの箱の中を覗き込んで、Aの箱にはチョコレートが入っているか、Bの箱にはチョコレートが入っているか、を判断する。この実験で「真実」と答えるが、4～5歳ごろから「善い箱」と答えるようになる。これは男の子の行動(どこを探せば)の場面における状態(善い箱にあるか)を判断している状態であり、心の理論を働かせていることになる。

心の理論が発達すれば、他者の行動の意思、すなわち道徳的判断も発達する。コールバーグは、高層状態を含む「ハインツのジレンマ」というエピソードに対して、どのような理由づけをするかを考慮し、3水準(6段階)からなる道徳性の発達段階を提唱した。この発達段階では、義務や法律など社会的ルールを意識する以前の段階である前慣習的水準から始まり、社会的ルールを守ることによって価値を置く慣習的水準、そして自分の良心や正義の基準、尊敬によって判断する脱慣習的水準へと発達するとされる。

心理学実験 ハインツのジレンマ

ハインツの妻はがんが原因で死にかけていた。医師は「薬を処方した薬を飲めば助かるが、それ以外に治療方法はない」と診断した。ところが薬師で、開業費の10倍の値段をつけていた。ハインツは薬を調剤するためにお金を借って買ったが半分しか買えなかった。ハインツは薬師に謝を許さず、お金を返さず、薬を盗んで帰る。ハインツは、薬を盗んで帰るために薬師の店に入り込み、薬を盗んだ。質問：ハインツは薬を盗むべきかどうか。それとも返すべきかどうか。どうしてそう思うか？

自己理解

自分という存在について気づき、自分らしさを獲得するのか。

自己の理解はどのように発達するのだろうか。2歳ごろになると、「鏡

(4) 第2編

生命・自然・科学技術、福祉・文化・宗教・平和をめぐる現代の倫理的諸課題を紹介するとともに、各節末にはそれぞれの課題についての「論点」を提示し、また、各節のあとには現代の倫理的諸課題を身近な話題から具体的に考察する「現代から考える倫理」のページを配置し、第1編で学んだ先哲の基本的な考え方を活用しながら現代の社会について主体的に考察できるように配慮した。

地球温暖化による気象の急変 (モルディブ)

第3節 科学技術をめぐる諸課題


科学技術の功罪
科学は私たちを幸せにしたのだろうか。

西洋近代における科学の発展は、自然についての私たちの知識を広げるとともに、技術を用いて自然をコントロールすることも可能にした。私たちが自動車や飛行機によって短時間で長距離を移動することができるのも、一年中エアコンのきいた部屋で快適に過ごしたり、さまざまな野菜や果物を食べたりすることができるのも、そうした科学技術のおかげである。

しかし、科学技術はそうして私たちの生活を便利にする一方で、弊害をもたらしてきた。1950～60年代に顕在化した日本の公害問題は、私たちの生活に便利なるを生み出す技術が、ときには自然を破壊し、私たちの健康を害することさえあることを示した。

特に近年注目を集めているのは**地球温暖化問題**である。産業革命以降、私たちは石炭や石油といった化石燃料を燃焼させることによって、大量のエネルギーを取り出して用いてきた。その燃焼の際に発生する二酸化炭素を代表とする「温室効果ガス」が地球の気温を上昇させていることが明らかとなってきたのである。温暖化によって、海水面の上昇や異常気象、農作物の不作などが引き起こされることが懸念され、早急な対策が求められている。

参考 15歳の少女グレタの活動
2019年、15歳のグレタ・トゥーンベリは、経済活動を通じて地球温暖化対策を行おうとしない大人たちに怒りを燃らし、ひとり学校ストライキを始めた。この運動は、世界の若者の共感を集め、「未来のための学校日」という大きな運動となった。グレタは大人たちに、科学に耳を傾けるよう訴えた。科学技術が自然破壊をもたらす一方で、それによって対処すべきものも、私たちは科学によって知るべきである。

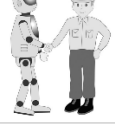


222 第2編 現代の倫理的諸課題

身に付ける可能性がある。そのとき私たちはAIにも人格を認めるべきなのかどうかという問題についてもすでに議論されている。

参考 自 アシモフの「ロボットの法」
アメリカの作家アシモフ(1920～1992)のSF小説「わがロボット(1950年)」に登場する法律。AIの人格の固定が議論される際しばしば参照されている。かつて「もったいもの」が「家の機能として認識されるようになってきた」のである。

第1条 ロボットは、人間を傷つけ、または个人行为によって人間が傷つく結果を生じさせてはならない。
第2条 ロボットは、人間が与えた命令に従わなければならない。ただし、その命令が第1条に反する場合はこの限りではない。
第3条 ロボットは、第1条および第2条に反しない限りにおいて、自己の存在を守らなければならない。



考えてみよう Thinking Time 科学技術をめぐる論点

1 マスメディアの報道
マスメディアは、視聴者の知る権利を満たす責任があるから、自由な報道で、正確な情報を伝えるべきである。しかし、多くの情報を伝えることが必要である。

2 インターネットを通じた情報交換
インターネットやSNSは、もともと個人間の自由な情報交換を目的とし、公開にするものであるから、それぞれまったく自由な情報交換をして当然である。

3 AIの開発・活用
AIは人間がこれまで行ってきた仕事を代行することができるが、しかも人間より優れた能力を擁することが期待されるのだから、どんな責任も負って活用していくべきだ。

他人のプライバシーの権利は基本的権利であるから、この情報誌をために、情報誌の編集や取材の自由は制限されてはならない。
インターネットやSNSはその特徴の一つである匿名性が強みであり、私や他人に害を及ぼす恐れがあるから、情報誌にも法律による規制が必要である。
AIは人間の生命を脅かしてしまうかもしれない。さらにこれまで人間だけに認められてきた権利や責任の所在を覆すことになりかねないのだから、その開発や活用には慎重であるべきだ。

第3節 科学技術をめぐる諸課題 227

現代から考える
倫理3 SNSと政治・経済

Topic 話題 SNSの影響



SNSによって一瞬のうちに、気軽に情報発信することができるようになった一方で、その匿名性や拡散力によって、SNS上のリアクションに感情が左右されたり、誤った情報に動かされたり、SNSをきっかけにいじめが行われることもある。子どもの精神的成長にも与える影響も大きく、オーストラリアでは2024年、16歳未満の子どものSNSの使用を禁止する法律が成立している。また、SNSを運営する企業は、大きな影響力を持つようになり、その経営者が政治にも動かすようになってきている。このような状況は「プラットフォーム資本主義」、あるいはプラットフォーム企業の経営者は単に、利用料を払えば利益をもたらす情報を利用する利用者は黙って利用することから「アクティブ化」ともよばれている。EUでは2024年に「デジタル規制法」が施行され、これに違反したプラットフォーム企業には巨額の罰金が課せられる可能性がある。

Parson 思想家 情報内容の正しさとは何だろうか。



1965年の『公共性の構造的転換』でマスメディアを批判したドイツの哲学者ハバーマス(→p.132)は、2022年の著作『公共性の新たな構造的転換と熟慮的対話』でSNSとそこで流通されるフェイクニュースが公共性を促進する危険性を訴え、政府のメディアが報道内容に責任を負っていたように、プラットフォーム企業も情報内容の正しさに責任を負うような規制が必要だと訴えた。

228 第2編 現代の倫理的諸課題

Issue 論点 SNSでの発言は規制されるべきだろうか？

考え方1 SNS上での発言は完全に自由であるべきである。思想表現の自由は基本的人権であり、SNSの上でのような発言でも規制されるべきではない。

考え方2 SNS上での発言には一定の制限が課されるべきである。執着を促したり、煽動した発言を流布させたり、差別的な発言を行うことは基本的人権には属さない。そのような発言は規制されるべきである。

あなたの考えは？ 上の「考え方」を参考にして、あなたの考えを述べてみよう。

Issue 論点 SNSを運営するプラットフォーム企業の活動は制限されるべきだろうか？

考え方1 活動を制限すべきである
民間企業は利益を目的としており、利益のためであれば有罪な情報もSNSで流されることも受け入れかねない。国家によるプラットフォーム企業の規制が必要である。

考え方2 活動を制限すべきではない
言論の自由に対する国家の介入は最小限にとどめられるべきであり、有害な発言の規制はプラットフォーム企業の自主性に委ねられるべきである。

あなたの考えは？ 上の「考え方」を参考にして、あなたの考えを述べてみよう。

問いを立ててみよう あなたが知りたいこと、調べたいことはあるだろうか？

第3節 科学技術をめぐる諸課題 229

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-80	高等学校	公民	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
104 数研	倫理 104-901	改訂版 倫理		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 学習指導要領にあげられた項目に基づき、本文の内容を編・章・節に分けた。各章冒頭の見開きでは、写真や図解を用いた解説でその章の学習内容を端的に示した。また、必要に応じてコラムや副文(比較・補足・参考)、脚注を設け、生徒の知識を深めたり、興味を広げたりすることができるようにした。

Contents

第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方

第1章 さまざまな人間の心のあり方 6

1 発達心理学 8
2 人格心理学 12
3 感情心理学 16

4 認知心理学 19
5 認知バイアスと批判的思考 23

第2章 さまざまな人生観 -源流思想- 34

第3節 古代ギリシアの思想

1 哲学の誕生…神話から哲学へ 36
2 ソクラテス 39
3 プラトン 42
4 アリストテレス 55
5 ヘレニズム時代の思想 58

第4節 キリスト教

1 古代ユダヤ教 60
2 イエスの教え 62
3 キリスト教の成立と発展 65

第5節 イスラーム

…「クルアーン」の教え 69

第6節 古代インドの思想と仏教

1 仏教以前の社会と思想 52
2 仏教の成立 54
3 仏教の展開 58

第7節 中国の思想

1 孔子と儒家の思想 62
2 道家の思想 66
3 墨家の思想(墨子) 69

第8節 近代西洋思想の源流

1 16-17世紀の人文主義と啓蒙 72
2 18-19世紀の人間と自然 75

第9節 近代西洋思想の源流

1 16-17世紀の人文主義と啓蒙 72
2 18-19世紀の人間と自然 75

● 源流思想のまとめ 76

第3章 さまざまな倫理観・世界観 -西洋近現代思想- 78

第1節 理性への信頼と人間の尊厳

1 ルネサンス 80
2 宗教改革 83
3 ヴェラリスト 85

第2節 自然・科学技術と人間

1 近代科学の誕生 86
2 ベーコンとデカルト 87

第3節 個人・社会と自由

1 自然権と社会契約 92
2 カント…人格の尊厳 98
3 ヘーゲル…人倫 102

第4節 民主社会の倫理

1 功利主義 104
2 実証主義と進化論 107
3 プラグマティズム 108
4 社会主義 110

第5節 現代思想の流れ

1 現代思想の萌芽 115
2 現代の興存哲学 119
3 人間中心主義の問い直し 123
4 新たな「他者」関係の構築 131
5 あるべき社会を求めて 133

第6節 現代社会と生き方

現代社会の分析…「自由」のゆくえ 136
「人間の尊厳」と「生命への畏敬」 137
「人権と民族」…「差別」の問題 139
参加と専任…自由と道徳 141

第7節 「善さ」と「正しさ」 142
● 倫理と科学 144
● 西洋近現代思想のまとめ 146

第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 148

第1節 日本の風土と古代日本人の考え方

1 日本の風土と社会 150
2 日本神話の源流 153
3 神話と倫理 155

第2節 仏教の普及と展開

1 仏教の伝来 156
2 平安時代の仏教 157
3 室町時代の仏教 162

第3節 近代西洋思想の源流

1 16-17世紀の人文主義と啓蒙 170
2 18-19世紀の人間と自然 177
3 19-20世紀の人間と自然 180

第4節 西洋思想の源流と近代日本の思想

1 幕府思想と民権論 182
2 国民権論とキリスト教 185
3 近代自覚の萌芽 189
4 近代日本における哲学の誕生 192
5 大正デモクラシーの思想 194
6 幕府初期の思想と新国家主義 196
7 国際社会を生きる日本人 198

第5節 「伝統」とは何か 200
● 日本思想のまとめ 202

第2編 現代の諸課題と倫理

第1節 生命をめぐる諸課題 206

第2節 自然をめぐる諸課題 214

第3節 科学技術をめぐる諸課題 222

第4節 福祉をめぐる諸課題 230

第5節 文化と宗教をめぐる諸課題 236

第6節 平和をめぐる諸課題 244

※この編では、第1節から第6節のうち、いくつかを選択して学習すること。

現代から考える倫理

1 ケアの倫理 212
2 手前と後人の自由 220
3 SNSと政治・経済 228

4 多様性と分断 234
5 コミュニティと共生 242
6 核兵器と平和 248

SKLE-IP >> 対話・議論の技能 250
SKLE-IP >> 資料を読む 252

さくいん 253

(2) 生徒の知識・技能および思考力・判断力・表現力等の習得に役立つさまざまな工夫

●本文

- ①「問いかけ」と本文中の重要ポイント 授業の展開を容易にし、かつ目的意識を持って学習できるように、各項目には、その項目の主要テーマについての「問いかけ」（着眼点）を設けた。さらに第1編では、その「問いかけ」に対応する本文中の記述に青色の下線を付し、初学者でも重要ポイントを把握しやすくなるように配慮した。
- ②比較 他の事項との関連や同じ性格の事項について、事項間の類似点や相違点を整理・理解するための解説として設けた。
- ③補足 本文に掲載された事項について、その内容をさらに深く理解するための解説として設けた。
- ④参考 本文よりやや高度な内容ではあるが、倫理を理解する上での参考になるため、とりあげている事項を示す。

デカルト…良識
デカルトの人間観はどのようなものだろうか。

大陸合理論の祖といわれるデカルトは、人間の理性を重んじ、人間はみ
→p.91
R.Descartes 1596~1650
 な公平に良識(ボン・サンズ)を分け与えられていると述べた。良識とは、
bon sens
 正しく判断し、真偽を見きわめる能力である。この良識を正しく用いると
 ころに、人間の知恵と徳との共通の基礎がある、と考えたのである。デカル
 トの哲学は、自己の生活をできる限り正しく導こうとする意志によって
 貫かれており、学問と生き方の統一こそ彼の哲学の根本動機であった。

比較 **鎌倉新仏教**

法然・親鸞・一蓮・道元・日蓮たちの教えは、天台宗・真言宗・華嚴宗などの旧仏教
 に対して、一般に鎌倉新仏教とよばれている。彼らは、共通して、在来の仏教
 受け継ぎつつ思索を深め、念仏・坐禅・唱題など、誰でも可能な修行を説いて
 親しみやすい和文を用いることによって、仏教の核心を平易に説いた。彼らに
 仏教はあらゆる階層に広まることになった。なお、彼らの教えは、主に室町時
 代に浄土真宗では、蓮如が、師文(師文章)とよばれる手紙で、親鸞の教えを
 すぐ説いて各地で布教につとめ、本願寺教団を発展させた。
 一方、鎌倉時代には、旧仏教でも改革運動が興った。戒律を重んじ密教も修
 言律宗の毀譽や悪性は、病人の救済や権の修造などの社会事業を行った。また
 を復興した明恵は、法然の専修念仏を批判し『権邪論』を書いた。

宗派	開祖(出身)	主要著書	開創寺院
浄土宗	法然(実作)	選択本願念仏集	知恩院(京都)
念仏	親鸞(京都)	教行信証	本願寺(京都)
時宗	一蓮(伊予)	一蓮上人語録*	清浄光寺(神奈川)
日蓮宗(法華宗)	日蓮(安房)	立正安国論	久遠寺(山梨)
浄土宗	親鸞(鎌倉)	浄土教団を発展させた	本願寺(京都)
密教	明恵(備中)	権邪論	永平寺(福井)

▲鎌倉新仏教 *死の直前に覗き捨てたため、一蓮の著書は残っていない。


補足 **ビッグ・ファイブ** ビッグ・ファイブの各特性は、一見すると、外向
 性、経験への開放性、調和性、誠実性は高い方が、神経症傾向は低い方が好ましいよう
 に感じられる。しかし、特性の程度の高低は個性であり、高い(低い)ほどよいというも
 のではない。たとえば、外向性の高低は、社会的で積極的である度合の個人差を示すも
 のである。このように、パーソナリティの違いとその行動に及ぼす影響を知っておくこ
 とで、自他の個性に対する理解が進み、自分の進路やさまざまな他者とともに生きてい
 くことについての理解が深まるのである。

参考 **サルトルの同時代人**

公私ともにサルトルのパートナーであったポーヴォワールは、サルトルの自由論をふ
 まえて、「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」(『第二の性』)と述べた。この主
 張は、その後の女性論、フェミニズム運動の出発点となった。
 また、『異邦人』や『ペスト』などの作品で知られる作家のカミュは、サルトルと深く
 かかりつつ、実存することの「不条理」に誠実に向きあう独自の思索を展開した。
 さらに、メルロ＝ポンティは、サルトル同様フッサールとハイデggerから大きな影響
 を受けたが、サルトルのように人間の全般的な自由を主張せず、人間の実存がその身体
 性と切り離せないことを強調した。

- ⑤人物・原典資料 人物の紹介や原典資料を豊富に掲載し、生徒が興味を持って学習でき
 るようにした。

人物 **ルソー** 1712~78



ジュネーヴに生まれ、恵まれ
 ない家庭環境のなかで青年期を放
 浪して送る。1750年アカデミー
 懸賞論文に当選して一躍有名に
 なった。主著『人間不平等起源
 論』『社会契約論』『エミール』

原典資料 **自由/政府と主権者** ルソー『社会契約論』

① 人間は自由なものとして生まれた、しかもいたるところで鎖につながれている。自分が他人
 の主人であると思っているような者も、実はその人々以上に奴隷なのだ。

② この行為(政府を設立して首長を任命する行為)は、まったく委任もしくは雇入れにすぎな
 いのであって、その場合、首長は主権者(国民)の単なる役人として、主権者から委ねられた
 権力を、主権者の名において行使しているのであり、主権者は、この権力を好きなときに制
 限し、変更し、取りもどすことができる。

●コラム

①CLOSE-UP/SKILL-UP 本文の関連内容、発展的な内容を中心に、一つの話題について深く掘り下げるコラム「CLOSE-UP」を設けた。また、対話・議論をする技能や資料を読む技能を紹介したコラム「SKILL-UP」を設けた。

CLOSE-UP 認知バイアスと批判的思考

研究を6回投げ、表を○、裏を●として順に記録したときに、次のAとBのどちらが正しいか。

A: ○●●●●● B: ○○○○○○

私たちが、財布のコインなどを狙うと、裏を向いたコインと裏を向いたコインの両方が見えるのが普通である。つまり、裏と裏が重なった結果は裏面に目にするが、表だけの結果はめったに見られないため、多くの人Aの方が起こりやすいと判断する(このように、簡単に直観的な思考判断のことをヒューリスティックな思考と呼ぶ)。しかし、どちらも個々の事象を独立している(ある回に表が出たからといって、次に裏が出やすいわけではない)ので、確率はともに(1/2)=0.015625である。このように、コンピュータと違っており、人間の思考や認知では、ヒューリスティックを使った結果、直観(直り)が生じることがある。これをバイアス(認知バイアス)と呼ぶ。

世の中には、第一印象が必ずしも正しいとは限らず、直観で正しい情報もたくさんあるため、ものを論議みせず、多面的に考えることが大切である。そのような論議的かつ直観的で偏り(バイアス)のない思考(認知バイアス)をクリティカルシンキングと呼ぶ。

人間の認知は、システム1 (fast) とシステム2 (slow) の二つのシステムから成り立つ(カーネマン「ファスト&スロ

ー」)。システム1は、表情を見て、一瞬で感情がわかるように、自動的に高速(fast)で動く。コイン投げで直観的にAと判断するのはシステム1の働きによる。その結果、バイアスが生じることがある。一方、システム2は、意識的な注意を要する認知で、複雑な計算や計画的な選択など、理性的な知的活動にかかわる。その結果、時間がかかる(slow)が、バイアスを修正することができる。コイン投げで事象の独立性に注意を向け、客観的にAとBの確率が同じだと認識するのは、システム2の働きによる。

このことから、批判的に思考するうえで大切なことは、システム1で生じる人間のさまざまな認知(バイアス)の特徴を知っておくことで、その知識を実際の問題解決場面ですystem 2を動かして使うことである。ここで、認知バイアスを知り、みずからの認知に注意を向けるメタ認知が、批判的思考を支えている。

なお、現実場面における批判的思考は、相手との協働的な活動のなかで進めることが多く、その際には、相手の発言に耳を傾け、考えや論議だけでなく、感情的にも理解することが必要である。

本書で学んだ人の発達、個性(人格)、感情、認知の知識を土台として、さまざまな経験を積み重ねることは、それ自体、バイアスを低減し、批判的思考を促進することにもなり、人生についての深く広い知性である英知の獲得につながる。

CLOSE-UP 23

SKILL-UP 対話・議論の技能

ソクラティックダイアローグ

対話や議論にはさまざまな目的があり、哲学において重要な目的は、自分たちの持つ考えを明らかにし、真理の探究を行うことである。そのような対話や議論の一つの理想として、今日でも言及されるのが、プラトンの一連の対話篇に記されているソクラテスの対話(ダイアローグ)である。

ソクラテスはアテナイ市民やソフィストとよばれる当時の知識人を相手に対話を行ったが、それは後にソクラテスマソッドとよばれるようになる独特の対話の技術を併せていた。彼は、自分は何も知らないといふと相手に対して、対話の相手に理や正義といった概念を説明させたのちに、その隠れた前提や、論理的な矛盾を明らかにして、実は相手も何も知らないことを暴露した。

ソクラテスのこのような対話術はしばしば相手を惑わせることにもなったが、彼の考えでは、彼の対話は真理を生み出すことを目的としており、それゆえ彼は自分の手法を「接産術」と呼んでいた。

対話・議論の技能

たとえば「何を絶対についてはいけない」という主張を検討するとしよう。まず、「何も」の定義を明確にする必要がある。お世辞はうそになるだろうか。また、勘違いして何かを人に伝えた場合

も、うそをついたことになるだろうか。次に、「何もかもなげうそをついてはいけないのか」と問うことも重要である。他人を傷つけてはいけないからだろうか。または、自分の都合のよいように他人を利用することになるからだろうか。だとすると、他人を傷つけないためのうそや、他人を利用するためのでないうそなら許されるだろうか。このように隠れた前提を明らかにして、議論の構造を明確にすることで、最初の主張をよりよく吟味することができるようになる。

さらに、現実あるいは倫理の事例を用いて考えてみることも重要である。たとえば、子どもが家で一人で留守番しているときに、知らない人が訪ねてきた場合に「お父さんは今寝ています」と答えることは許されるか、といった事例である。定義を明確にし、前提を明らかにする。具体例を用いて考えてみる。といった対話術は、他者の対話を通じて真理を探究する際に重要であるだけでなく、一人で本を読んでも使えたり、論文を讀んだりする際にも役立つものである。

対話・議論における推論の誤り

議論(アーギュメント)は、いくつかの前提と結論を導き出すさいの推論の誤りに注意する必要がある。たとえば「雨が降ったら外の道が濡れる。今、外の道が濡れている。した

250 SKILL-UP

②Thinking Time 先哲の基本的な考え方を紹介する第2章～第4章では、各章末に、「善さ」と「正しさ」、「真理と科学」、「伝統」とは何か」など、学習してきた内容と関連する話題を取り上げたコラム「Thinking Time」を設けた。コラム末尾には、「考えてみよう」を設けて着目点を示した。

Thinking Time 3

真理と科学

真理とは何か

真理とは何だろうか。たとえば、いま目の前に反転のカエルがいるのが見える。すると私は「このカエルは灰色である」ということを正しい(=真理である)と考えているといえる。しかし、明るいと暗いところに行ってみるとそのカエルは実は緑色であった。そうすると、先ほどの「このカエルは灰色である」は間違い(偽)で、「このカエルは緑色である」ということを正しい(真)とみなす。

この時私たちは、私たちの認識(「このカエルは緑色である」)が、対象(実際のカエル)と一致していることが真理であると考えているのである(真理対応説)。ところが、いま見えているこの緑色が、本当のそのカエルの色であることを私たちはどうやって知るのだろうか。もっと明るいとこに行けば、そのカエルはまだ違う色に見えるかもしれない。いや、本当のそのカエルは、私たちがどう見えるのかということに関係なく、全く別の色をしているかもしれない。あるいはこうも考えられるかもしれない。そのカエルに本当の色などないのだ。あるのはただ、そのカエルがどう見えるのかだけである。と、もしそうだとするならば、あるのは「どう見えるのか」だけであり、真理などないということになる(懐疑主義)。

さまざまな世界観

このように真理とは何かという問題は、実は大変な難題であり、哲学者たちは長い間この問題に取り組みさまざまな解答を与えてきた。それというのも、もし真理などないのだということになれば、私たちの知識も意味のないものになってしまうからである。

人間は生まれ育った環境によって、それぞれ異なる世界観を身に付けている。文化や宗教が異なれば、この世界を全く違ったものとして理解しているかもしれない。私たちは、そうした異なる文化や宗教がそれぞれ持っている世界観を尊重しなければならぬ。

しかし、もしそうだとするならば、誰かが共有することのできる客観的な真理などというものは存在しない、ということになるのだろうか。あるいは世界についてのさまざまな見方であるにすぎず、世界そのものについては誰も知ることはできないのだろうか。

科学とは何か

他方で、西洋で近代以降発達してきた科学的なものの見方は、今日多くの人々に受け入れられており、私たちに客観的な知識、真理を伝えてくれるように思われる。では科学は常に正しいのだろうか。

科学の強力さは、その実用性に見出すことができる。ロケットを宇宙に飛ばすことができるのも、私たちの病気を薬によって直すことができるのも、それは科学のおかげである。科学を通じて私たちは、生活を便利にし、科学以前には「運命」として受け入れざるをえなかった不幸を避けることができるのである。

しかしまた、科学も間違わないわけはない。たとえば、18世紀の化学者は、燃焼はフロギストン(燃素)とよばれる元素が放出されることによって起こると考えていた。ところが私たちがいま、これが間違いであり、燃焼は物質が酸素と結びつく現象であることを知っている。だとするならば、いま私たちが正しいと信じている科学的知識も間違っている可能性がある。科学もまた「信じられて」もことになるのだろうか。

科学と科学の間のには、大きな科学的知識とある。知識が信仰と異なるといえる点にたなければならぬ。科学が正当な手続きを

知識は変更されなければならない。まさに、そうしていつでも修正されるものであるからこそ、科学は科学的なだけといえる。

科学は万能か

祖伝を重んじるのは科学だけではない。哲学者もまた、存在の根拠を追究してきた学問である。むしろ科学はかつて哲学の一部であった。それが近代以降の科学の発展とともに、科学は哲学から自立するにいたったのである。

科学が自立することができたのは、数学や実験により一定の方法を確立することができたからである。しかし、私たちが知りたいことがいつもこの方法で導かれたものであるとは限らない。たとえば、「人生をいかに生きるべきか」とか「幸福とは何か」といった私たちの推論にとって重要な問題に、数学で答えたり実験で確かめたりすることはできるだろうか。しかしまた他方で、根拠なく科学の成果を否定し、信じたいことだけを信じるという態度も危険である。私たちは、取り返しのつかない誤りをして、何が正しいかを

考えてみよう Thinking Time 3

①単なる物の見方ではないような真理は存在するのだろうか。

②科学と、宗教や哲学との違いは一体何なのだろうか。

Thinking Time 3 145

●思想のまとめ 第2章～第4章の章末には、その章で扱った主な思想家の著作やことば／思想を一覧できるように、見開きで「思想のまとめ」を掲載した。

西洋近現代思想のまとめ				西洋近現代思想のまとめ			
思想家	生没年	主な著作	ことば／思想	思想家	生没年	主な著作	ことば／思想
ヒューマンイズム	ピコデラミランダ	1463-1494	『人間の尊厳について』	キルケゴール	1813-1855	『死にいたる病』	主体的真理性の探求 実存の三段階 単独者
	エラスムス	1466-1536	『愚神礼讃』	ニーチェ	1844-1900	『ツァラトゥストラはこう言った』	ニヒリズムの肯定としてキリスト教を批判 『神は死んだ』 力への意志 超人
	マキアヴェリ	1469-1527	『君主論』	ベルクソン	1859-1941	『創造的進化』	生の哲学 生の衝動 (エラン・ヴィタール)
啓蒙主義	トマス・モア	1478-1535	『ユートピア』	ヤスパーズ	1883-1969	『哲学』	『理性と実存』 限界状況 包摂者 実存の交わり
	ルター	1483-1546	『95か条の論議』	ハイデッガー	1889-1976	『存在と時間』	実存 世界内存在 『ひと』 現への存在
	カルヴァン	1509-1564	『キリスト教綱要』	サルトル	1905-1980	『存在と無』	『無境』 『精神分析入門』 『実存は本質に先立つ』 『自由の刑』 対自存在 アンガージュマン (社会参加)
近世哲学	モンテネグロ	1533-1592	『エッセー』	フロイト	1856-1939	『精神分析』	無意識 エス・自我・超自我 防衛機制
	パスカル	1623-1662	『パンセ』	ユング	1875-1961	『心理学と錬金術』	集合的無意識 元型
	ペーコン	1561-1626	『ニュー・ソトランティス』	ゾシュール	1857-1913	『一般言語学綱要』	構造言語学の創始者
近代哲学	デカルト	1596-1650	『方法序説』	レヴィナス	1908-2009	『他者』	『野生の思考』 構造主義 文化対主義
	ホッブズ	1588-1679	『リヴァリアン』	フーコー	1926-1984	『監獄の歴史』	『言葉と物』
	ロック	1632-1704	『人間悟性論』	ドゥルーズ	1925-1995	『アンチエディプス』	欲望する機械 能力の働き
近世社会思想	ヘーゲル	1770-1831	『精神現象学』	デリダ	1930-2004	『エクリチュールと差異』	脱構築
	フーコー	1926-1984	『監獄の歴史』	リオターール	1924-1998	『ポストモダン論』	哲学分野でポストモダンを提唱
	カント	1724-1804	『純粋理性批判』	ホルクハイマー	1895-1973	『啓蒙の弁証法』	批判的理論 道具的理性を批判
現代哲学	ヘーゲル	1770-1831	『精神現象学』	アドルノ	1903-1969	『啓蒙の弁証法』	啓蒙の弁証法
	フーコー	1926-1984	『監獄の歴史』	フロム	1900-1980	『自由からの逃避』	『自由からの逃避』
	カント	1724-1804	『純粋理性批判』	ハーバーマス	1929-	『公共性の構造転換』	『コミュニケーションの合理性』
現代社会思想	ヘーゲル	1770-1831	『精神現象学』	ワйтゲン	1889-1951	『論理哲学論語』	『語りえないこと』
	フーコー	1926-1984	『監獄の歴史』	シュタイン	1902-1994	『開かれた社会とその敵』	科学としての反証可能性を持つこと
	カント	1724-1804	『純粋理性批判』	グリーン	1922-1996	『科学革命の構造』	科学の革命はパラダイムの転換による
現代社会思想	ヘーゲル	1770-1831	『精神現象学』	レヴィナス	1906-1995	『他者と他者』	西洋哲学の全体性を批判
	フーコー	1926-1984	『監獄の歴史』	アーレント	1906-1975	『人間の条件』	『プロクスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
	カント	1724-1804	『純粋理性批判』	ウェーバー	1864-1920	『プロクスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	『プロクスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
現代社会思想	ヘーゲル	1770-1831	『精神現象学』	リースマン	1903-2002	『孤独な群衆』	『孤独な群衆』
	フーコー	1926-1984	『監獄の歴史』	ロールズ	1921-2002	『正義論』	『正義論』
	カント	1724-1804	『純粋理性批判』	セン	1933-	『不平等の経済学』	『不平等の経済学』
現代社会思想	ヘーゲル	1770-1831	『精神現象学』	ノーザック	1938-2002	『アナーキー』	『アナーキー』
	フーコー	1926-1984	『監獄の歴史』	サンデル	1953-	『リベラリズムと正義の論争』	『リベラリズムと正義の論争』
	カント	1724-1804	『純粋理性批判』				

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方	A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方		
第1章 さまざまな人間の心のあり方	(1) 人間としての在り方生き方の自覚 ア(ア)・イ	6~23 ページ	6
第2章 さまざまな人生観	(1) 人間としての在り方生き方の自覚 ア(イ)(エ)・イ	24~77 ページ	17
第3章 さまざまな倫理観・世界観	(1) 人間としての在り方生き方の自覚 ア(イ)(ウ)(エ)・イ	78~147 ページ	21
第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚	(2) 国際社会に生きる日本人としての自覚	148~204 ページ	18
第2編 現代の諸課題と倫理	B 現代の諸課題と倫理	206~252 ページ	8
		計	70